

鹿児島で2001林業機械展示・実演会



価値ある林業の実現に向けて

鹿児島県と社団法人林業機械化協会（南方康会長）の共催による「2001林業機械展示・実演会—森林と機械と人の調和—」が、去る11月18・19日の2日間、鹿児島・末吉町の内村工業団地内において開催された。「間伐は国土を守るキーワード」を謳い、高性能機をはじめ、38社が自慢の360機種を出品した。

第25回全国育樹祭の記念行事として開催された同展示・実演会は、従来の手持ち機器から最新の高性能機まで一堂に介し、林業機械の情報発信の場として全国の関係者から注目を集めて

いる。

小春日和の中、18日午前9時より行なわれた開会式では、須賀鹿児島県知事の挨拶（代読）に引き続き、林業機械化協会の南方会長が「森林の広域的機能

の発展や環境の観点から森林整備が大事であり、そのために機械は不可欠である。機械化促進のため、開発・改良、普及に努め、機械化システムを発展させること

が重要である。新世紀最初の展示会に際し、会員一同が「結束して意義あるもの」として」と挨拶（代読）した。その後、林野庁長官の祝辞、末吉町長歓迎の言葉が述べられ、同町前川地区の前川踊りが披露され、展示会はスタートを切った。

今回の主な出展内容は、高性能機ではフェラーバンチャ2社2台、ハーベスタ3社7台、プロセッサ5社6台、フォワーダ4社8台、タワーヤード1社2台、スイングヤード4社5台。その他、チェーンソー7社8ブランド65台、刈払機8社29台、モノレール4社9種に加え、近年注目度の高まるチップ関連機器や材木処理機械など充実のラインナップとなり、韓国など海外からの視察者も会場を訪れた。

各社ブースを見ると、高性能機では、GT-500/GP-532

▲高性能機の展示で注目の新キャタピラー三陽



▲数々の機械の性能を披露した小松製作所

／TW202L緊急間伐対応機のイワフジ工業、ベースマシンPC138US-2やハンマクラッシャCR550Mなど活躍機種が勢揃いした小松製作所、312Cタワーヤードと312Bプロセッサによる実演が来場者の目を惹きつけた新キャタピラー三菱、アタッチメントの対応が容易なZAXIS135USLを前面に出した日立建機などが自慢の機種群を展示。

チェーンソーなど手持ち機器では、共立がスーパープロCSV395SP、小松ゼノアが世界最軽量のG2500、新ダイワ工業の背負式エンジン枝払い機、スチールの竹切りチェーンソーMS200など、その扱いやすさをアピールした。

また、資源の有効活用の観点から注目のチップパーシュレッダでは、今回初出展となる三陽機器のグリーンフレカGF150、東興産業の3680C型ピーストリサイクラー自走

式、マルマテクニカのブラッシュチップパー、リョーキのAZ-35K自走式高速木材シュレッダーといったものがその性能の高さとチップの使用法まで訴えかけ、来場者の目を引いた。

その他でも、新宮商の円柱加工機RFB50-200型、日研精工の自走式移動製材車NCL-1000など間伐材の有効利用を助ける機械、チグサのローラックスMG-800RM5型、ニッカリのモノラックNR-5S、筑水キャニオムのやまびこBY1202など林内での移動・運搬に

る機械までが、持っている能力を発揮した。

神奈川県から来た来場者は、「機械も便利なものが増えた。各社とも機械の小型化、低価格化を目指していると聞いたので今後が期待できる。急傾斜地でも、安全に下刈できる機械があれば良いのと思う」と貴重な意見を頂いた。

最新の技術を公開し、林業機械導入の足掛かりをつかむと共に、今後の課題も検討される価値ある展示会となった。



▲プロ用チェーンソーが好評の共立



▲竹切りチェーンソーの切れ味を示したスチール



▲好評のグリーンフレカで初出展の三陽機器



▲日研精工の実演に注目が集まった



▲主催者のテープカットでスタート